

# 平成 13 年度事業報告書

2001（平成 13 年）年 4 月 1 日～2002（平成 14）年 3 月 31 日

## 1. 財団の機関会議

- ① 理事会 2001 年 6 月 10 日、第 6 回理事会を開催し、平成 12 年度事業報告書、決算報告書について議決を行った。2002 年 3 月 2 日、第 7 回理事会を開催し、平成 13 年度補正予算書、平成 14 年度事業計画書、収支予算書について議決を行った。
- ② 評議員会 2001 年 6 月 23 日、第 3 回評議員会を開催し、平成 12 年度事業報告書、決算報告書について議決を行った。2002 年 3 月 16 日、第 4 回評議員会を開催し、平成 13 年度補正予算書、平成 14 年度事業計画書、収支予算書について議決を行った。
- ③ 監査 2001 年 5 月 30 日、平成 12 年度決算について、山崎博幸監事、村木源二郎監事が監査を行った。
- ④ 事務局会議は、毎週火曜日の午後 6 時より約 2 時間実施し、活動の企画運営について話し合いを行っていたが、藤原研究員、白神研究員の復帰により、非常勤を含めた会議は、2002 年 2 月より毎月第 2 土曜日の午前 10 時に変更。常勤職員による打合せ会議は、毎週木曜日午前 10 時から約 2 時間行っている。

## 2. 財団の活動

### I 環境再生活動の推進

#### (1) 八間川をシンボルとした環境再生活動

- ・ 2001 年 6 月 3 日、第 9 回八間川調査の実施。岡大農学部・名誉教授小西國義先生による「八間川の岸：どんな木々が似合うでしょう？」をテーマとした講演会の開催。
- ・ 2001 年 6 月 18 日、クラレ倉敷工場、倉敷市土木課・下水課との懇談。
- ・ 2001 年 8 月 25 日、第 10 回八間川調査の実施。調査ポイントにクラレ工場廃水を追加。水草研究会（神戸）に参加。
- ・ 2001 年 9 月 11 日、水島小学校課外授業「八間川での体験学習」へ、ゲストティーチャーとして参加。
- ・ 2001 年 10 月 6・7 日、「川に学ぶ体験活動経験交流会」（主催：岡山河川工事事務所 場所：岡山勤労者福祉会館）への参加。パネル展示。
- ・ 2001 年 10 月 10 日、水島小学校「わくわくタイム」への参加。
- ・ 2001 年 11 月 4 日、第 11 回八間川調査の実施。信州大学・名誉教授桜井善雄先生による「川は地域の宝—そのはたらきと保全・活用」講演会の開催。
- ・ 2001 年 8 月、八間川調査活動の市民への普及をはかるため、(財)イオン環境財団の第 11 回助成に応募した。11 月 12 日決定通知。助成額は 30 万円で、1 月 10 日に払込済み。
- ・ 2002 年 2 月 17 日、第 12 回八間川調査の実施。川崎医療福祉大学・助教授梶田博司先生によるホテル講演会の開催。

- ・2002年2月、小中学生を対象とした八間川写生展示会開催のため、(財)河川環境管理財団の河川整備基金に応募した。
- ・2002年3月16日、日本水環境学会第36回年会付設展示会への出展。

(2) まちおこし「こだわり衆」の組織

- ・本年度は、財団事務局の体制が整っていなかったために、「こだわり衆」組織に関して具体的な話を進めるに到らなかった。今後引き続き検討を進めていく予定。

(3) 水島地域再生計画の検討

- ・あおぞら財団からの委託事業として「都市部のオープンスペースを活用した大気生活環境施策に関するハンドブック整備事業基礎調査」に取り組んだ。白神研究員があおぞら財団での研修時に参加。

II 公害被害に係わる体験や教訓を活かす活動

(1) 公害裁判の資料の保存・教訓を活かす活動

- ・あおぞら財団主催の公害資料保存研究会専門委員会及びワーキンググループへの参加。

(2) 地域の公害体験「語り部」活動

- ・記録映画「水島に生きる」の普及および次作の作成

前作に引き続き白井久夫氏((株)創映社、元NHKディレクター、映像ジャーナリスト)に撮影・製作を依頼した。

2001年4月8日、ナレーション収録への参加、打ち合わせ(東京)。

2001年5月、「海のわかれ 2000年夏、水島」、「公害は終わったのか 第1~4章」完成(各100本)

- ・環境教育用ビデオ「公害は終わったのか」普及のため、「第10回下中教育映像助成金」(下中記念財団)に応募した。2002年2月21日決定通知。助成金額は30万円。ビデオの増刷を行い、内容を紹介した簡単なパンフレットを添えて小・中学校へ配付する予定。

(3) コンビナート公害に関する経験の途上国への情報発信

- ・2001年11月23・24日、「21世紀を環境の世紀に」NGO国際会議(主催:あおぞら財団他 場所:北九州市)に協力。みずしま財団は、第1分科会「公害の被害と対策の教訓を交流しよう」に主査団体として参加。
- ・2002年3月29~31日、『第20回日本環境会議/アジア国際環境会議・松江大会』に参加。第三分科会「自然環境と文化環境を活かすまちづくり(2)ー工業地域と都市の環境再生ー」において、森瀧理事長が「水島工業地域の環境再生計画づくりを目指して」と題して報告を行った。

(4) 地球環境市民大学校への参加

- ・2002年3月1~3日まで、主催:環境事業団。アムダ国際福祉事業団の協力により、国際協力講座が哲多町で開催され、白神研究員が参加。

III 調査研究の推進

(1) コンビナート周辺の環境改善に関する調査研究

### ①樹木調査に基づく、温暖化防止に関する調査研究

- ・平成13年度も引き続き（財）省エネルギーセンター地域活動支援事業として、昨年度までの成果に基づき、地球温暖化の仕組みとその防止に果たす森林の役割、省エネルギー生活の重要性を解説した小中学生向けの教材を作成。監修者は、岡山大学大学院自然科学研究科教授千葉喬三先生。
- ・2001年7月6日、7月30日、9月14日、12月18・28日、打ち合わせ。
- ・2002年1月「温暖化の危機から地球を守る ー森林のしくみを見直し省エネルギーに務めるー」完成。希望者には販売。
- ・2002年1月30日、省エネルギー地域活動支援事業公募説明会（広島）において、活動内容、支援事業に関する講演。

### ②倉敷市・資源循環型廃棄物処理施設整備運営事業に関する調査研究

倉敷市がPFI法（民間資金の活用による公共施設の整備等の促進に関する法律）に則って計画を進めるゴミ処理施設の建設に関して、財団は安全性と妥当性の点から質問・要望を行った。

- ・2001年5月22日、「倉敷市・資源循環型廃棄物処理施設整備運営事業 実施方針」に対する意見質問書提出。（6月29日回答）
- ・2001年6月8日、川崎製鉄千葉製鉄所内のガス化溶融炉施設を見学。
- ・2001年6月12日、PFI・ガス化溶融炉に関する学習会（あさがお会館）を開催。
- ・2001年6月20日、倉敷市ごみ・環境問題を考える会準備会（倉敷労働会館）に参加。
- ・2001年7月10日、倉敷市ごみ・環境問題を考える会結成総会（倉敷市民会館）に参加。建設政策研究所 辻村定次氏による記念講演。
- ・2001年7月13日、倉敷市長宛に要望書を提出。これに基づき市民環境部次長三宅英邦氏、主幹常藤馨氏と懇談。
- ・2001年11月16日、倉敷市・ゴミ環境問題を考える会事務局会議に参加。

### ③温暖化防止のためのアンケート調査

本調査は、環境省地球環境局の事業として、あおぞら財団から委託を受けて行う。温暖化対策として、日常生活の中での取り組みへの気づきを促すことを目的とし、倉敷医療生協職員（400人）、組合員（400人）を対象として行う。2002年3月中に配付、郵送により回答。5月中には集計予定。

### (2) 瀬戸内海的环境再生に関する調査研究

環境事業団地球環境基金の助成事業として行ったもので、本年度は3年間の継続事業の2年目に当たり、調査活動を中心に行い、瀬戸内沿岸各漁協へのアンケート調査、備讃瀬戸海域での底土分析調査等を行った。本事業は、森瀧理事長、磯部理事、白井理事の主導で行われた。

- ・小型底引き網漁船による定期的な調査の実施。

寄島町漁協漁師三宅是ヒコ氏の協力を得て、毎日の操業のなかで網にかかる海底ゴミを回収。それを岡山大学工学部の学生2名（太清輝、中野大悟）により、陸上で分別・集計。

- ・アンケート調査

瀬戸内海沿岸1府8県の各漁協（440漁協）に、漁協の組合員構成、海底ゴミの現状・被害の有無、対策を行っているかどうかを質問するアンケート調査を実施（回答数：210）。集計・分析を行った。

・底土分析

備讃瀬戸海域（水島沖・笠岡諸島沿岸・高梁川流域）の総計 60 ポイントで採泥を行い、倉敷芸術科学大学教授妹尾護先生に重金属成分の分布を中心とした分析を委託。採泥作業（2001 年 10 月 20・21・27 日水島沖、11 月 27 日、12 月 1 日笠岡諸島沿岸）

採泥作業に際し、海上保安部への届け出に関して不備があり、2001 年 11 月 5 日、「無届での作業に関する顛末書」を提出。

- ・2001 年 11 月 18・19 日、EMECS 環境教育フェア（神戸）での海底ゴミ・パネル展示。
- ・本年度の活動のまとめとして、2002 年 3 月 24 日に中間報告会を開催。同時に 2002 年 3 月 18 日～26 日まで JEAN クリーンアップ全国事務局の協力により、漂着物のトランクミュージアムも開催。

#### IV 広報・交流活動

##### (1) 財団広報誌「みずしま財団たより」の発行

- ・財団の活動報告、今後の予定のお知らせ等、情報発信を目的とした広報誌「みずしま財団たより」を発行。年 4 回、季刊発行。
- ・2001 年 4 月 23 日、みずしま財団たより第 2 号編集委員会。
- ・2001 年 5 月、みずしま財団たより第 2 号発行。別刷として、倉敷市長宛「水島八間川整備に関する要望書」及び、岡山県知事宛「提言『人・モノ・情報が行き交う快適生活県岡山』の実現をめざして」についての公開質問状を掲載。これらに対する回答書も併せて掲載。
- ・2001 年 6 月 5 日、みずしま財団たより第 3 号編集委員会。
- ・2001 年 7 月、みずしま財団たより第 3 号発行。賛助会員の募集を開始。倉敷 PFI 事業に対する意見・質問とその回答を掲載。
- ・2001 年 8 月 21 日、みずしま財団たより第 4 号編集委員会。
- ・2001 年 10 月、財団たより第 4 号発行。8 面立てとし、倉敷 PFI 事業に対する市役所との懇談結果の掲載、コラム「環境あれこれ」、中国公害記事の連載開始。
- ・2001 年 11 月 21 日、みずしま財団たより第 5 号編集委員会。
- ・2002 年 1 月、財団たより第 5 号発行。「みずしま再発見」、「水島の民話」の連載開始。日本環境会議に向けての患者会との懇談内容の掲載。
- ・2002 年 2 月 12 日、みずしま財団たより第 6 号編集委員会。発行は 4 月を予定。

##### (2) 財団発行物

- ・パートナーシップによる環境改善報告書 No. 3  
「第 1 回地球学校 水島コンビナート地域の環境再生」（2000 年 6 月）  
※環境事業団地球環境基金部助成事業報告書
- ・みずしま財団年次報告書 Vol. 1 1997 年 1 月～2001 年 3 月（2001 年 12 月）
- ・「温暖化の危機から地球を守る ー森林のしくみを見直し省エネルギーにつとめるー」（2002 年 1 月）

##### (3) その他の活動

- ・あおぞら財団、日本環境会議、気候ネットワーク、瀬戸内海的环境を守る連絡会、沖縄環境ネットワーク、高梁川流域ネットワーク、(財) おかやま環境ネットワークとの交流活動。

- ・2001年6月6日、岡山県立落合高校で藤原研究員が、「私たちのまちをつくろう～環境問題と向き合う～」と題して講演を行った。
- ・2001年6月21日、KCT「みずしま日記」にて第9回八間川調査レポート放送。
- ・2001年9月15日、(財)おかやま環境ネットワーク設立を祝う会(岡山)に参加。
- ・2001年9月28日、青山勲先生の「環境大臣表彰」受賞をお祝いする会(岡山)に参加。
- ・2001年12月8日、「環境省と21世紀の環境行政 一川口環境大臣と語るタウン・ミーティング」(岡山)に参加。
- ・2001年12月22日、都市環境再生研究部会第2回部会(神戸)に参加。
- ・ホームページによる情報発信。  
みずしま財団の活動をより多くの方に知ってもらうためのホームページの整備。ホームページ上では、財団設立の経緯や各種事業の案内等を公開。  
2002年3月、ドメイン(mizushima-f.or.jp)を取得。

### 3. 組織

#### I 事務局

- ・藤原研究員は、2001年1月から1年間育児休暇。2002年1月から復帰。休暇中、新しいメンバーが加わったが、体制的に整っていなかったため、木曜日の事務局打合せ会議に適宜参加をしてもらった。
- ・4月から塩飽研究員、白神研究員を常勤職員として正式に採用した。
- ・白神研究員は、2001年8月～12月まで、あおぞら財団で研修を行い、NGO国際会議に向けての活動への参加と、「都市部のオープンスペースを活用した大気生活環境施策に関するハンドブック整備事業基礎調査」事業、その他の活動に参加して、連携を深めた。

#### II 賛助会員

- ・広く財団の活動を支援していただくために、2001年7月発行のみずしま財団たより第3号より募集を開始。個人会員1口1,000円、団体会員1口10,000円。特典として、財団発行物、みずしま財団たよりの送付、開催イベント等各行事のご案内の送付等。現在会員数は、個人会員104人、団体会員12団体。